橘木俊詔『格差社会』

第3章　格差が進行する中で
―いま何が起きているのか

全体のまとめ

- 高い貧困率
  - 年齢別では高齢者と若者
  - 世帯類型別では母子世帯と高齢単身者
- 低すぎる日本の最低賃金
  - 生活保護の支給額よりも低い最低賃金
  - 非正規労働者、特に女性と若者の状況が深刻
- すべての国民が健康で文化的な最低限の生活ができる権利（憲法）が尊重されねばならない
  - 働く人が生活していけるだけの所得を得るのは当然のこと

- 富裕層の変容
  - 富裕層：企業のトップ、医者
  - サラリーマン経営者から創業経営者へ―はじめから創業経営者を目指そうと考える若者の増加
  - 医学部進学過熱化
- 企業と医療に共通する問題
  - 組織のなかで地道に働くよりも高額所得を得たいという人が増える傾向
  - 日本の産業・医療の基幹部分が空洞化する危険
- 地域間格差の拡大
  - 数値で見る限り、格差は昔からあり、様相も変わってはいないが、失業率の高まり、経済の沈滞、公共事業削減により、地域間格差が深刻化

- 奪われる機会の平等
  - 教育における機会平等：不平等化が進んでいる
    - よい教育を受けられるのは、所得の高い親の子弟
    - 日本のGDP比教育費支出は先進国中最低水準、にもかかわらず政府は教育費を大幅にカットし続けている
  - 職業における機会平等：不平等化が進んでいる
    - 親の職業が子どもの職業水準を決定する割合が高まっている（たとえば政治家と医者）
  - 女性における機会平等：いまだ不十分
    - 教育：上級学校への進学は男子優先という考えが復活するかもしれない
    - 就職：かつてよりは平等化が進んでいるが、いまだ不十分
    - 昇進：あからさまな差別は減ってきているが、いまだ不平等

「統計的差別」を根拠に差別してはならない